

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 9 ※記入不要	提案機関名 農業振興課
要望問題 高付加価値化をめざした農産物取引の実態と今後の方策策定	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】	
<p><背景> 農産物の低価格が日常的になってきている中で、環境保全や高糖度化技術等による高付加価値化をめざした取組みが行われている。これらが実際に高価格等の高い評価を受けているのか実態を明らかにし、今後、農業者の団体や関係機関が取り組む方策を策定する必要がある。</p> <p><内容> 高付加価値化農産物の事例調査 高価格につながる条件についての調査 今後の取り組み方策（農政施策を含む）</p>	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
研究対応区分	①研究所対応 ②委託研究 ③共同研究 ④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（②根府川試験場 ③三浦試験場 ④津久井試験場） ⑤畜産研究所 ⑥水産総合研究所（⑦内水面試験場 ⑧相模湾試験場） ⑨自然環境保全センター

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部 署	経営情報部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合)	<p>ア 環境保全型減農薬化学肥料栽培体系の実証、経済性の評価（経営情報部成績書 H10年）</p> <p>イ 環境保全型栽培で生産された農産物に対する消費者の意識調査（同 H11、H12年）</p> <p>ウ 廻り集荷・移動販売システムの地域モデルによる検討（実施中）</p> <p>エ 県内産農産物の県内消費を前提とした高付加価値販売方法の検討（新規）</p>
対応の内容等	<p>環境保全型による高付加価値化の調査については、課題ア、イで実施済みです。</p> <p>高価格につながる条件についての調査ですが、消費者ニーズの充足度が高いものが高価格につながると考えます。現在実施中の課題ウにおいて、消費者の農産物に対するニーズの把握を行っておりますのでその結果が参考に出ると思われま。</p> <p>また、今後の取り組み方策（農政施策を含む）については、課題エを立ち上げ、地元産農産物について県内消費を前提とした高付加価値販売方法について検討していきたいと思いま。</p>
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考	